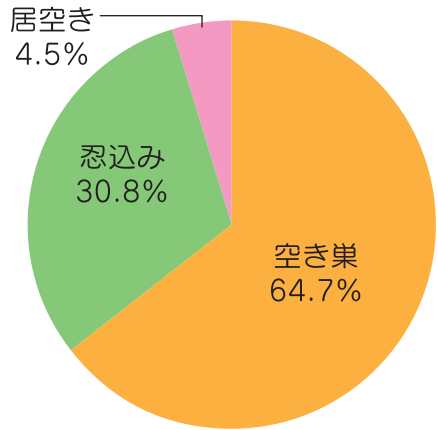


空き巣・忍込みなどの侵入盗難

手口と現状

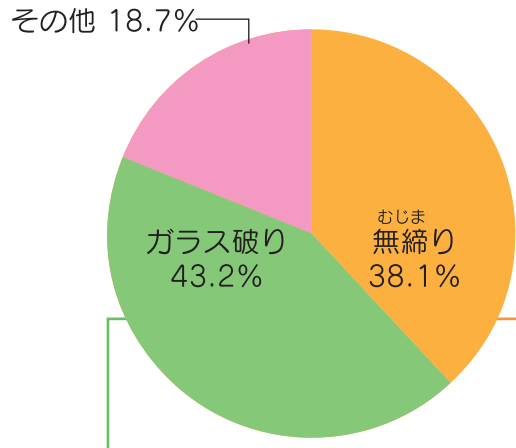
■住宅対象侵入窃盗認知状況



- 空き巣……家人が留守中に泥棒に入ること
- 忍込み……家人が就寝中に泥棒に入ること
- 居空き……家人が在宅中に泥棒に入ること

本県における令和3年中の侵入窃盗犯罪は975件で、前年に比べて253件(20.6%)減少しました。このうち、住宅を対象とした侵入窃盗犯罪は470件で、侵入窃盗犯罪の48.2%を占めています。

■住宅対象侵入手段別 認知状況



対策	対策
<p>防犯性能の高い建物部品を活用することは泥棒の侵入を防ぐことに有効です。侵入に5分以上かかると約7割が侵入を諦めるとされています。</p>	<p>「鍵掛け」が基本です。短時間の外出でも必ず鍵をかけましょう。</p>

泥棒の多くは、犯行前に下見を行い、「入りやすく逃げやすいか」、「留守がちの家か」などをチェックしています。留守の確認方法は、「インターホンで呼んでみる」、「動きを見張る」、「部屋の明かりの点灯状況を確認」などです。具体的な対策方法は12ページから16ページを参考にしてください。

被害に遭わないために

●「泥棒が嫌う対策」をする

侵入盗難対策の基本は、泥棒が嫌がる4要素(16ページ)を踏まえて、複数の対策を組み合わせることが重要です。

●侵入前に「犯行を諦めさせる」

下見などにきた泥棒に「防犯対策を見せる」ことによって、侵入前に犯行を諦めさせることが重要です。

■玄関まわりの対策

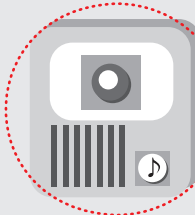
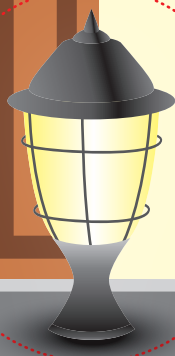
○センサーライトや警報ベルを取り付ける



○防犯カメラを取り付ける



○防犯カメラ等の設置を表示する



●カメラ付き

インターホンを取り付ける

(録画機能付きもあります。)



●門灯や玄関灯を終夜点灯する(「一戸一灯運動」などと呼ばれています。)

Column コラム

防犯性能の高い建物部品

行政(警察庁ほか)、住宅生産者団体、建物部品関連団体からなる「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」では、最近の手口に応じた防犯性能試験を実施し、これをクリアした錠、ガラス、防犯フィルム、サッシ、ドアなどの建物部品を「防犯性能の高い建物部品目録」に掲載し、ホームページなどで公表しています。

<http://www.cp-bohan.jp/>

家を新築したり、防犯対策を考える際の参考にしてください。

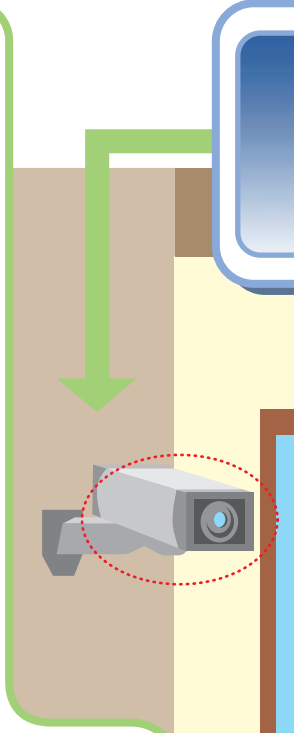


・この試験では、侵入犯の7割が侵入を諦めるとされる「5分間」侵入に耐えることを基準としています。

・目録に掲載された建物部品には左のマークが表示されます。

● 防犯アラームを取り付ける

ドア(引戸、窓など)に取り付け、侵入者がドアなどを開けるとアラームが鳴り異常を知らせるものです。
暗証番号によりアラームを解除するものもあります。



● ガードブレードを取り付ける

ドア枠とドアの隙間からデッドボルト(施錠時のかんぬき)が見えていると、ボールなどでごじ開けの攻撃対象となります。
ガードブレードで隙間を隠すことができます。

● 主錠だけでなく補助錠を取り付け、1ドア2ロックにする



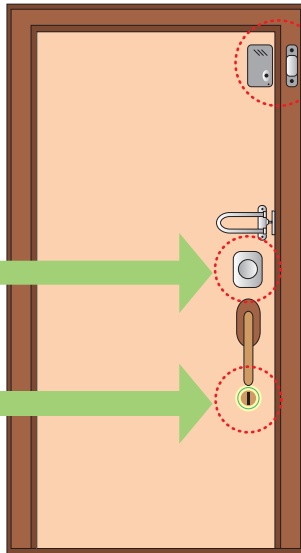
● サムターンカバーを取り付ける

ドアの郵便受けから、あるいはドアスコープ(のぞき穴)をはずしたり、ドアに穴を開けたりして器具を挿入し、錠を開ける「サムターン回し」という泥棒の手口に対しては、サムターンカバーが有効です。
ドアスコープが容易に外されないように固定したり、郵便窓口が必要以上に開かないようにする対策も必要です。



サムターンカバー

● アームロック／ドアチェーンを取り付ける



内側

● 破壊やピッキングに強い錠と交換する

「ピッキング」とは、鍵以外の特殊な工具を鍵穴に差し込んで錠を開ける手口です。
円筒錠やインテグラル錠など、ドア・ノブの中心部に鍵穴があるタイプの錠は、破壊されやすく、防犯性が低いことに注意が必要です。(P12コラム参照)



防犯性の高い錠(内側)



防犯性の高い錠(外側)



防犯性の低い錠(内側)



防犯性の低い錠(外側)

■窓まわりの対策

●補助錠を取り付ける

サッシ窓の主錠の他に窓の上下に補助錠を取り付けると侵入に要する時間が長くなります。補助錠には、比較的安価で、簡単に取り付けることができるものもあります。



補助錠 - 上

補助錠 - 下

●面格子を取り付ける

トイレや風呂場等、換気のため開けておくことが多い窓には面格子を取り付けましょう。

緊急時の脱出口とすべき窓には、防災上の支障がない可動式のものもあります。

外部から容易に取り外せないよう、ネジの頭をつぶして回せなくしたり、こじ開けられないよう頑丈に取り付ける必要があります。施工については専門業者に依頼することをお勧めします。

●複層ガラスや防犯ガラスに交換する

窓ガラスを防犯ガラス（2枚の板ガラスに樹脂中間膜を挟んだ合わせガラスの一種）にすると、破るのに時間がかかり、侵入が難しくなります。また、防音効果や省エネ対策となったり、防犯ガラスは割れても破片が飛び散らない効果もあります。

（網入りガラスは、火災時に脱落しづらいので、延焼や類焼を防ぐ効果がありますが、防犯性能は期待できません。）

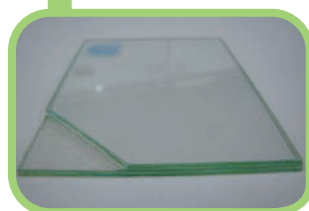
●窓ガラスに防犯フィルムを貼り付ける

防犯フィルムを貼り付けると破るのに時間がかかり、侵入が難しくなります。

施工については専門業者に依頼することをお勧めします。

●センサー付き警報器を取り付ける

窓ガラスが割れる時に発する超音波を感じて異常を知らせます。



■外出時の対策

●泥棒を防ぐには、何よりも留守だと悟られないことが大事

「郵便受けに新聞をためたままにしない」、「雨戸を閉じたままにしない」、留守番電話の応答メッセージは、「外出中」とせず、「ただいま来客中」などと工夫し、不在であることを悟られないことが大事です。

また、隣近所の方に、時々家の様子を見てくれるよう頼むことも必要です。

●ゴミ出しや近所の買い物など、短い時間でも施錠は確実に

泥棒はわずかな時間で侵入し金品を奪っていきます。少しの間だからと油断せず、施錠をして出かけましょう。

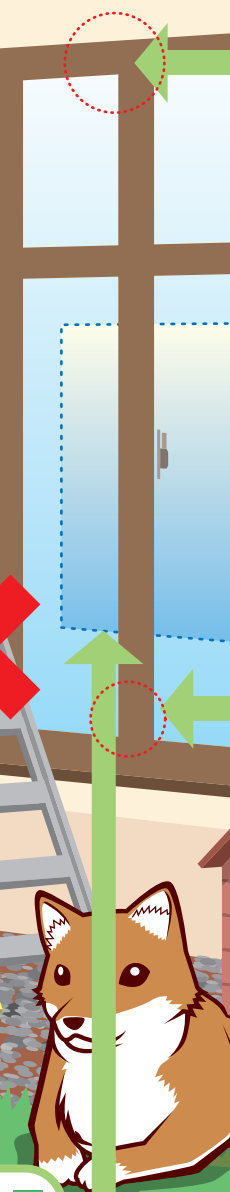
●照明器具等の活用

夜間まで家を空ける場合は、一部の部屋に灯りをつけたままにしたり、テレビやラジオをタイマーでつけるなどの工夫をしましょう。

■地域全体で取り組むことが大切

●泥棒は対策の弱い家を狙います。自分の家だけではなく、「自分が住む地域に泥棒を侵入させない」よう、一戸一灯運動など地域全体で防犯に取り組むことが大切です。

●周囲の道路やゴミ集積場周辺の環境美化に努めることも大切です。地域住民が地域内のことに関心を持ち、連帯感があることをアピールすることによって、泥棒が寄り付きにくくなります。



■家の周囲の対策

●塀を低くしたり垣根の刈り込みをして、周囲からの建物の見通しをよくする。

●番犬を飼う。

●砂利など、歩くと音をたてるようなものを通路等に敷きつめる。

●より音が出やすい、防犯用の砂利も売られています。

●2階への足場となるような物を放置しない。

●物置やエアコンの室外機等が2階から侵入する際の足場となります。

●防犯カメラや防犯センサー付きライトを取り付ける。

被害に遭ってしまったら

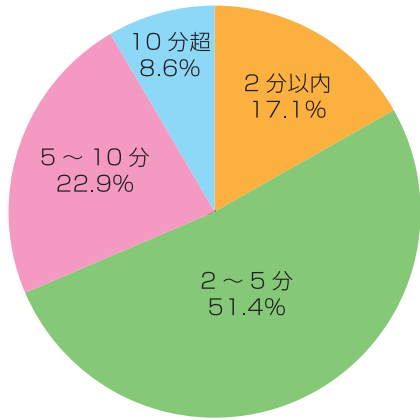
●玄関や窓、廊下など、犯人が触ったり歩いたりした可能性のある部分には触れないようにして、すぐに警察に連絡する。

●家の中で物音がするなど犯人が潜んでいる可能性がある場合は、すぐに安全な出口から外に出て110番通報する。

●犯人に出くわした場合には、安全な場所へ逃げることを最優先に考える。

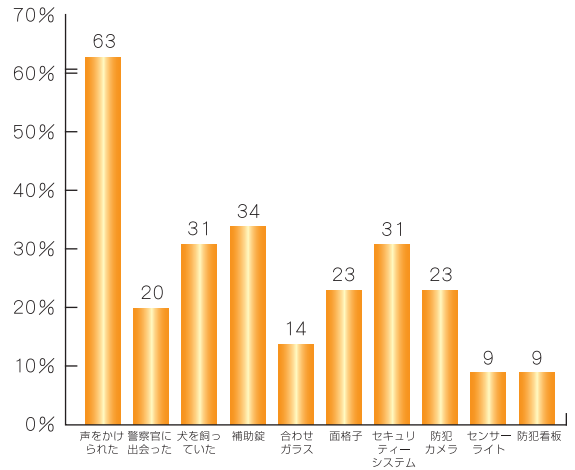
泥棒が犯行を諦める理由と時間

■泥棒が侵入を諦める時間の比較



ガラスを破ったり鍵を開けたりするのに時間がかかるほど、侵入を諦める率は高くなります。侵入に5分以上かかると約70%の泥棒が侵入を諦め、10分以上では約90%が諦める、という調査結果が出ています。防犯対策は、「最低5分間は持ちこたえる対策」が必要です。

■泥棒が犯行を諦めた理由



(出典：(財)都市防犯研究センター JUSRI リポート別冊 No.17 防犯環境ハンドブック)

「泥棒が嫌がる 4 要素」



住宅防犯対策「警察官が教える泥棒の嫌がる家」群馬県公式 YouTube チャンネル「tsulunos」で動画配信中です！

